

がんセンター 便り

 宮城県立がんセンター地域医療連携室



緩和ケアセンターを開設しました！

副院長兼緩和ケアセンター長 ふじや つねあき 藤谷 恒明



平成18年に成立した「がん対策基本法」ならびに平成24年に閣議決定された「がん対策推進基本計画」の定めにより、「がんと診断された時からの緩和ケア」を推進するため、当院では緩和ケア病床や緩和ケア外来、緩和ケアチームを整備運営して参りましたが、それらを有機的に調整しバックアップする組織として本年4月に緩和ケアセンターを開設しました。

緩和ケアセンターでは、センター長は副院長が兼任しますが、司令塔的役割のジェネラルマネージャー（看護師）や緩和ケア関連認定看護師2名が専従で対応するほか、緩和ケアチームのメンバーである緩和ケア内科医師、精神科医師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、臨床心理士など多職種が加わり、全員参加のチームワークを基に活動します。

また、緩和ケアセンター内の新たな組織として看護外来を設け、そこに各種認定看護師を配置しました。これにより患者・家族の皆様の精神的・経済的な心配事でも気兼ねなく相談できるようになれば皆様の安心に繋がると考えております。このように緩和ケアセンターでは看護外来と協働でがん性疼痛の緩和のみならず「精神的・経済的な痛みに対する緩和」にも対応する全人的な診療を行いたいと思っております。

更に、緊急緩和ケア病床として院内に2床を確保しました。このベッドは予め登録して頂いた医療機関で緩和的な在宅診療を受けている患者さんの緊急時の受け皿と考えております。この緊急緩和ケア病床の運用は地域の医療機関の皆様のご理解とご協力なくしては成り立ちません。今後皆様との定期的なカンファレンス等を通じて地域の緩和ケア提供体制の実状をご教示頂く中でより良い態勢を構築して参りたいと思っております。

宮城県立がんセンターの緩和ケアセンターを宜しく申し上げます。

地域医療連携の強化をめざして

緩和ケアセンター ジェネラルマネージャー もんま きょうこ 門間 京子



昨年の11月に発行したがんセンター便りの中で、看護部として「地域医療連携の強化をめざして」というタイトルで緩和ケアセンターの設置について紹介いたしました。あれから約半年を経て、この春に晴れて開設しジェネラルマネージャーの任に就くことになりました。都道府県がん診療連携拠点病院として緩和ケアセンターの果たす役割期待は大きく、身の引き締まる思いです。

緩和ケアセンターとしての業務は院内外において様々な活動があります。院外における新規事業の「緊急緩和ケア病床の確保」は「何かあったらがんセンター」と療養支援の心強い体制です。また「地域の緩和ケアの提供体制の実情把握と適切な緩和ケアの提供体制の構築」については、宮城県がん診療連携協議会においても、がん看護の質向上のため、看護管理者のネットワークを構築し、看護管理者の視点で、協議会を支援することを目的に「看護部会」が昨年創設されました。今後、看護部会と連携し県内のがん看護の情報の集約と発信をして、緩和ケア体制を構築していきたいと思っております。一方で、今ある資源を効率的に活用し、これまで行ってきた公開研修会や地域連携カンファレンスなどの経験を活かして、更に深化・拡大して参りたいと思っております。

緩和ケアセンターの機能が十分発揮できるよう、ジェネラルマネージャーとして療養の場や専門他職種との連携が図れるよう調整し、安心して在宅療養が継続できるよう、地域の先生方が抱えている困りごとに対応させていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

緩和ケアセンターの紹介

緩和ケアセンターの役割

- ・対象：すべてのがん患者や家族
- ・目的：診断時から迅速かつ適切な緩和ケアを切れ目なく提供すること
- ・方策：緩和ケアチームや緩和ケア外来、緩和ケア病棟を統括し活動すること
- ・構成：医師・看護師を中心とした多職種が連携したチーム医療を行うこと

緩和ケアセンターの構成

- ・センター長：藤谷恒明
- ・ジェネラルマネージャー：門間京子
- ・身体症状担当医師：中保利通、清川裕道
- ・精神症状担当医師：野村綾
(精神医療センター)
- ・緩和ケア関連認定看護師：早坂利恵、鈴木美穂
- ・医療ソーシャルワーカー：小野貴史
- ・ほか、薬剤師、臨床心理士、理学療法士、管理栄養士など

緩和ケアセンターの業務(院内)

- ・緩和ケアチームや緩和ケア外来の運営
- ・緊急緩和ケア病床の確保
- ・外来看護業務の支援・強化
- ・がん患者カウンセリング
- ・がん看護体制の強化
- ・緩和ケアに関する高次の専門相談支援
- ・医療従事者に対する院内研修会等の運営
- ・診療情報の集約・分析

緩和ケアセンターの業務(院外)

- ・緊急緩和ケア病床の確保
- ・地域の医療機関に対する相談連絡窓口の設置
- ・医療従事者に対する研修会等の運営
- ・地域の緩和ケアの提供体制の実情把握と適切な緩和ケアの提供体制の構築(カンファレンスの実施)

苦痛のスクリーニング

緩和ケアががんと診断されたときから提供されるよう

- (1)がん患者の身体的苦痛や精神心理的苦痛、社会的苦痛などのスクリーニングを診断時から外来および病棟にて行うこと
- (2)院内で一貫したスクリーニング手法を活用すること
- (3)緩和ケアチームと連携し、スクリーニングされたがん疼痛をはじめとするがん患者の苦痛を迅速かつ適切に緩和する体制を整備すること

これらががん診療連携拠点病院の指定要件となり、苦痛のスクリーニングをしています。外来・入院の多忙な業務の中でのスクリーニングの実施は、医療者にとっても決して容易なことではありません。しかし、スクリーニングを通してこれまでよりさらに患者さん・ご家族の苦痛・苦悩に目を向ける機会となり、一人でも多くの方にスムーズに緩和ケアが提供されることを期待し、これからも効果的な取り組みとなるよう整備していきたく考えています。

がん看護外来

緩和ケアセンターでは、病気や治療に伴うからだの症状やこころのつらさ、療養生活の中での不安や心配事について、がんと診断されたときから、治療と並行して患者さんやご家族のつらさを和らげる医療を専門職(医師・歯科医師・看護師・薬剤師・ソーシャルワーカー・理学療法士・栄養士など)と協力・連携して提供します。

緩和ケアセンターでの「がん看護外来」では、専門的な知識と技術を持つ看護師が、がんと共に自分らしく患者さんやご家族が生活できるようにサポートをします。

(現在は、院内の患者さんにご家族を対象としています)



新任医師の紹介

①診療科 ②氏名 ③出身地 ④挨拶・抱負

- ① 消化器内科
- ② 涌井 祐太 (わくい ゆうた)
- ③ 仙台市



④ 東北大学病院より異動となりました。涌井です。主に肝臓を専門にしており、肝癌だけでなく肝炎も含めて幅広く診療をおこなっていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

- ① 頭頸部外科
- ② 西條 聡 (さいじょう さとし)
- ③ 仙台市



④ 西條聡と申します。2004年に埼玉医科大学を卒業し、福島県立医科大学耳鼻咽喉科学講座に2016年3月までお世話になっておりました。福島では主に頭頸部癌、超選択的動注化学療法に関わらせていただいております。松浦科長の下、一生懸命研鑽を積ませていただきたいと思っております。ご指導・ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

- ① 循環器内科
- ② 加藤 浩 (かとう ひろし)
- ③ 仙台市



④ 赴任して約3週間になりますが、この病院の特殊性を実感しています。今年3月の日本循環器学会でも初企画のCardio-Oncologyセッションが、かなりの盛況ぶりです。がん診療における循環器内科医の役割の重要性を認識させられました。微力ながら皆様の診療に貢献できまよう頑張りますので、よろしくお願い致します。

- ① 泌尿器科
- ② 武田 詩奈子 (たけだ しなこ)
- ③ 仙台市



④ 4月より東北大学病院泌尿器科から赴任して参りました。至らぬ点多々ありご迷惑をおかけするかと存じますが、がん診療に貢献できるよう日々努力して参りたいと存じますので、どうぞよろしくお願い致します。

- ① 頭頸部外科
- ② 大久保 淳一 (おおくほ じゅんいち)
- ③ 広島県



④ はじめまして。大久保淳一と申します。生まれも育ちも広島ですので野球はカーブです。しかし学力が及ばず産業医科大学をH17年に卒業しました。われらが弱小産業医大はかつて八幡製鉄所で繁栄した福岡県北九州市にございます。報道されているよりは意外と安全で暮らしやすいとの評価を頂いております。

大学院修了後は頭頸部外科に専心して参りました。縁あって松浦先生のご指導を仰ぐ機会を頂きまして、一からのスタートを切る所存です。西から眺めると東北地方はかなり高尚でアカデミックなイメージがあり高貴な異文化圏への単身赴任を決意することは少々勇気が必要でしたが精一杯精進させて頂きまますので、皆様どうぞ宜しくお願い申し上げます。

- ① 整形外科
- ② 矢野 利尚 (やの としひさ)
- ③ 京都府木津川市



④ この度、県立がんセンターに赴任しました。矢野利尚と申します。今年度より東北大学の大学院に進学いたしました。当院整形外科は宮城県内で骨軟部腫瘍の診断、治療を行っている数少ない病院のひとつです。大学院生として診療、研究の両面で一生懸命頑張りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

- ① 頭頸部内科
- ② 山崎 知子 (やまざき ともこ)
- ③ 岩手県



④ このたび、国立がん研究センター東病院頭頸部内科より赴任いたしました。主に頭頸部・甲状腺がんの薬物療法、化学放射線療法、治験を中心に担っております。当科は頭頸部内科として日本で2番目に設立された科であります。今後は、宮城県のみならず、東北地方全体の頭頸部がんの薬物療法の発展、および病院連携、医科歯科連携にむけて邁進する所存です。何かございましたら、お気軽にご連絡いただけますと幸いです。どうぞよろしくお願い致します。

- ① 消化器内科
- ② 菅井 隆広 (すがい たかひろ)
- ③ 宮城県



④ 4月から消化器科で勤務しております菅井です。自治医科大学出身で、仙台医療センターで2年間の研修後、栗原中央病院2年、涌谷町国保病院3年、七ヶ宿診療所1年の勤務を経て、こちらに参りました。一日でも早く専門病院の医師として医療を提供できるよう努力いたします。どうぞよろしくお願い致します。

- ① 血液内科
- ② 鎌田 真弓 (かまた まゆみ)
- ③ 宮城県大崎市



④ 鎌田と申します。血液疾患の治療は日進月歩で学ぶことが多く、積極的な治療を行っているこの宮城県立がんセンターで多くを学び、自身を鍛えていきたいと思っております。また、積極的な治療が不可能な場合における血液内科としての緩和医療にも興味があり、多方面で勉強させて頂ければと思います。何卒よろしくお願い致します。

退任者医師

- 大和田直樹 循環器内科 (平成27年6月30日付け)
- 加藤 健吾 頭頸部外科 (平成27年9月30日付け)
- 吉田新一郎 整形外科
- 塚本 啓祐 消化器内科
- 梶井 成彦 泌尿器科
- 斎藤 陽 血液内科 (平成28年3月31日付け)



>>>>>>> 第10回看護部公開研修会のご案内 <<<<<<<<

「乳がん患者のケア～リンパ浮腫予防の指導とケア～」

乳がん看護認定看護師 五安城芙由子・船水まり子

■日時:平成28年7月16日(土)
9:30～12:30

■会場:宮城県立がんセンター 大会議室

■定員:50名

■対象:医療施設、社会福祉施設、訪問看護ステーション等で働く職員で開催内容に興味のある方

■申込:申込用紙にご記入のうえFAXにて、お申込み下さい。



外来新患診療体制表

平成28年5月現在



(宮城県立がんセンター)

診療科	曜日	月	火	水	木	金
消化器科	新患	●	●	●	●	●
消化器科	専門外来	肝臓	肝臓	上部・胆膵	肝胆膵・下部	上部消化管
血液内科		●		●		●
腫瘍内科		●		●		
呼吸器内科		●	●	●	●	●
呼吸器外科				●		●
乳腺外科		●			●	
消化器外科			●	●		●
整形外科			●		●	●
脳神経外科		●		●		●
頭頸部外科		●	●		●	
形成外科			●			●
婦人科		●	●		●	
泌尿器科		●		●	●	
放射線治療科		●	●	●	●	
緩和ケア内科				●		●

*消化器科では、専門外来の診察日にも紹介患者さんの予約を受け付けております。お申し込みの際にご確認下さい。
診療受付時間:午前8時30分～11時00分 TEL 022-384-3151(代) FAX 022-381-1169 (地域医療連携室)



交通案内

J 桜
R 交
仙南交
自家用車

東北本線名取駅下車、バスまたはタクシーを利用
名取駅西口から「県立がんセンター線」(なとりん号)を利用
名取駅西口から「北目上原線」(なとりん号)を利用
仙台南インターからは、国道286号バイパス経由
県道仙台・岩沼線を利用 (所要時間約15分)

地域医療連携室のご案内

地域医療機関の先生方からご紹介を受けた患者さんの診療予約をお取りしてスムーズな受診ができるようにしております。

- 受付 午前8時30分～午後5時15分
- TEL (022) 381-5152 (直通)
- (022) 384-3151 (代) 内線123
- FAX (022) 381-1169 (地域医療連携室)

宮城県立がんセンター
〒981-1293 宮城県名取市愛宕塩手字野田山47の1
電話(代表) (022) 384-3151 FAX(企画総務課) (022) 381-1168

□ゴマークの3本の柱は「治療、予防、研究」を、上の「まる」は患者さんを表わしています。3本の柱が、患者さんを支えるという意味です。